



創薬エコシステムの現在と未来に備えて

アイパークインスティチュート株式会社

代表取締役社長 藤本利夫

2026年1月21日

日本成長戦略会議 創薬・先端医療ワーキンググループ



湘南アイパーク：世界最大級のバイオ医薬品産業クラスター オープンイノベーションを促進する施設と仕掛けを湘南で展開



- 1 質の高い研究設備の提供と研究支援サービス
- 2 多様なプレーヤーと豊かなエコシステムを構築
- 3 産官学の連携
- 4 ベンチャーを育てるIncubation
- 5 地域とともにサイエンスとイノベーションを育む

スタートアップから製薬企業まで多様な企業・団体が集積し共創

2024年度
KPI





世界の創薬エコシステムの現在

- 製薬企業は特許切れ + 薬価削減の圧力からM&Aやライセンス導入、コスト改革に専念
 - スタートアップ・VCはIPO、資金調達が低調なため後期アセットに集中し、資本効率を高めている
- 日本が長期的視点でイノベーションを支える主体となる好機

💊 製薬企業 (Big Pharma)

- 特許切れ (Patent cliff) で売上圧力：コスト構造改革 (販管費・製造・R&D整理)
- BD&L/M&A再加速：パイプライン穴埋め (早期～中期の資産獲得、共同開発)
- China-to-Westの導入増
- 薬価政策 (米IRA等) の織り込み：ライフサイクルマネジメント強化

🚀 スタートアップ

- 資金調達は「勝ち組集中」：臨床前ほど厳選 (社数は絞られる)
- ダウン/ブリッジ増、IPO細い → 提携・M&A
・代替資金で時間を買う
- 生存戦略：臨床に近いアセット + 資本効率 + Big Pharma提携前倒し

💰 VC／資本市場

- 「資金はあるが慎重」：少数に厚く、臨床・差別化・商業性のハードル上昇
- 資金調達の環境は重い (サイズ抑制)
- 非希薄化・代替資金 (ロイヤルティ、デット等) の存在感が増大

🎓 大学／技術移転

- 技術移転：件数・起業は堅調でも収益は変動 (エクイティ回収など多様化)
- 产学連携の共同化：機関間契約増、単独から連携へ
- 大学発は資金戦略が変化 (助成金/財団 + 提携前倒し等)

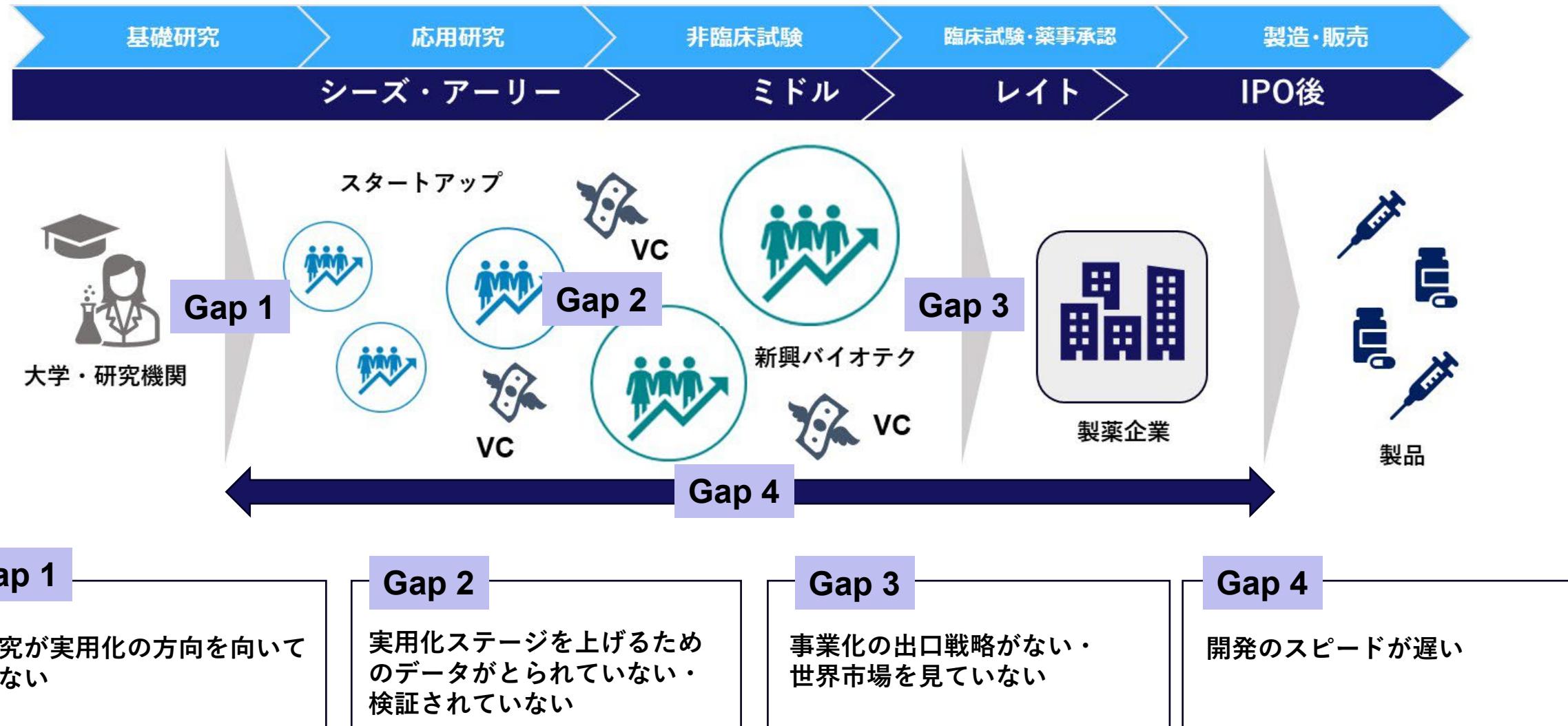
🧪 インキュベータ／ウェットラボ

- 米主要クラスターでラボ空室が増加 (供給過多 + 需要減速)
- 条件が借り手有利：短期契約・拡張オプション・入居インセンティブ増
- 大手バイオ縮小でラボのサブリース増



日本の現在：創薬の死の谷は1つではない

产学が研究早期から目線を合わせて実用化を飛躍的に加速させる創薬エコシステムの強化が必要

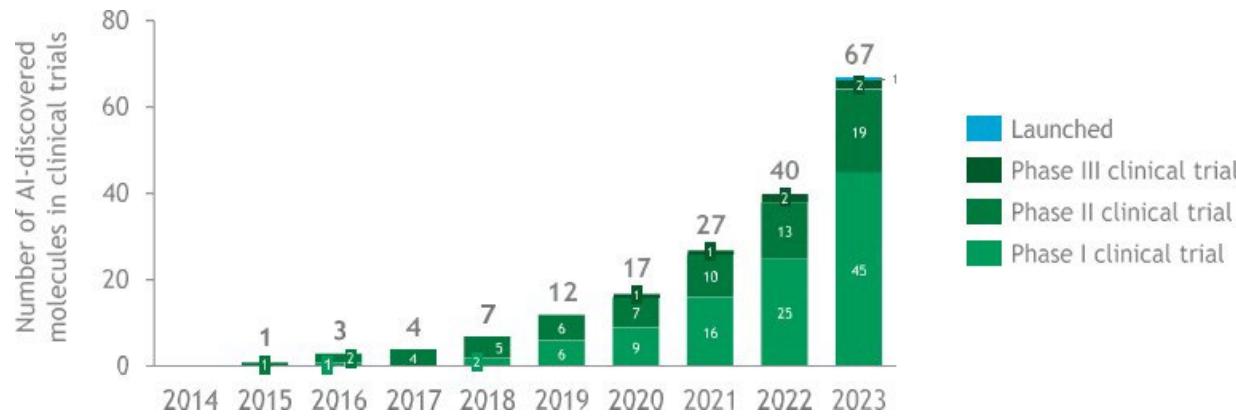




創薬の未来への動き：米中を中心にAI創薬が成果を出し始めている



- 現在上記の各セグメントで数多くのAI創薬スタートアップが生まれ、その技術優位性を競っている
- AIにより発見された薬剤候補の臨床試験数は大きく増加



AI創薬躍進の背景

技術

- 創薬の中心技術に仮説立案、分子設計、ペプチド創薬などで大幅効率化

データ

Multi-modal AI+ゲノム解析

- 従来のテキストデータから画像、オミックスを取り込みターゲット同定精度が飛躍的に向上

基盤

AIプラットフォーム化

- 外部企業も利用可能な創薬サービスモデルが拡大 (Lilly-NVIDIAのAI Factory/TuneLabなど)

開発

臨床試験の効率化

- AIによる患者層別化で成功率向上やコスト削減

規制

規制当局の支援

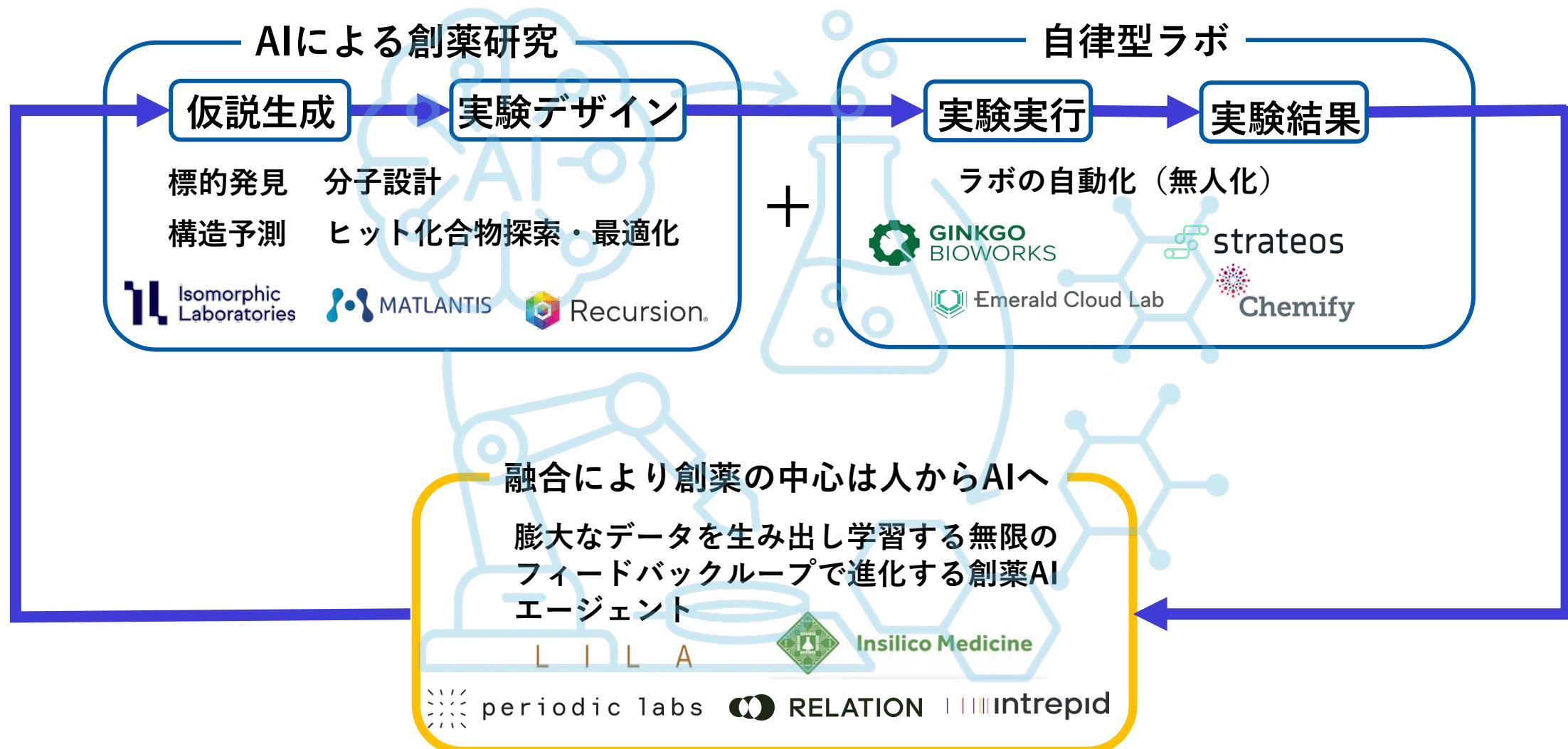
- FDAがAIによる安全性・有効性モデリングを前向きに評価



さらにAIと自律実験ラボを融合させた創薬の自動化の動きも出ている



AIが生成する研究仮説を、自律型ラボが自動的に検証してリアルなデータをAIにFeedbackする。AIとラボの融合による膨大な情報のループが、人間をはるかに超えた超知能を生み出し、創薬の高速化・効率化・高度化を可能にする



AI創薬がもたらす創薬エコシステムの未来への対応

日本からAI創薬スタートアップを量産するには？

政府と民間が共同投資するAI創薬・自律実験プラットフォームの構築



共用基盤は政府と民間が共同で整備、個別ユースケースは民間主導でレバレッジを最大化